

ワークもライフも充実した1年に

西部教育事務所 所長 大澤 好 則

青葉が美しい季節となりました。令和4年度がスタートして2か月ほどが経ち、学校の体制も整い、様々な取組が本格化してきているところと思います。

また、新型コロナウイルス感染症への対応がまだ続く中、先生方が学びを止めないために努力と工夫をしながら子供たちの成長を見守り、背中を押していただいていることに深く感謝申し上げます。

さて、本年度も、「ICTを有効活用した教育の推進」をキーワードとして様々な取組を推進していくこととなります。授業の質的な向上はもちろん、学校と家庭の学びをつないだ授業実践、校務の効率化を進めるための活用等、群馬ならではの新しい学びに向け、管理職のリーダーシップとともに、学校の組織力、各先生方の知恵や発想力を最大限生かして推し進めていただけるとありがたいです。あわせて、先生方が心身ともに健康で豊かな生活が送れるよう切に願っています。

近年、「ワークライフマネジメント」という考え方を取り入れている企業が増えてきているそうです。ワークライフバランスと基本的には同じ意味合いで、ともに「仕事と生活を充実させる生き方」を目指しています。しかしながらワークライフバランスが、「ワークもライフもほどほどに」とか「企業が従業員のためにするもの」という意味で認知されるようになってきている状況があり、それを改善するためにマネジメントの考えを取り入れているものです。

「ワークライフマネジメント」とは、仕事（ワーク）と生活（ライフ）を積極的にマネジメントし、どちらにおいても成功を収めていこうとする考え方です。「マネジメント」という言葉により、仕事と生活のバランスを誰かに準備してもらうのではなく、自らが主体的に作り上げていくことが大切であるという意味を強くもつことになりました。そのため、誰もが自らを分析し、必要に応じて変更を加え実行し、自分の人生をより豊かにしていくという積極的な取組が求められています。ワークライフバランスと比べると、一人一人が仕事と生活にどう向き合っていくかを一層大切にしているのだと思います。

この考えを取り入れた企業は、これまで以上に生産性が向上した、仕事と生活の両方が相乗的に充実した、人材の確保ができるようになったなどというメリットが生まれているそうです。

多忙化解消が急務となっていますが、それを推進していくことは、先生方が仕事と生活の両方を充実してもらうためにも必要なことと考えています。そして、自分のために使える時間が増えたら是非、これまでできなかったことに挑戦したり、素晴らしいもの一流のものをしたり触れたりして欲しいと思います。そこにはきっと新たな発見や感動があり、先生方の価値観や人生観がより豊かなものになるのではないかと思います。また、その体験を子供たちに伝えてあげることで、子供たちが将来に向けての夢や希望をたくさん持てるようにしていただけるとありがたいです。

終わりに、今年度も西部教育事務所は、「子供も大人も学び活躍できる地域づくり」を目指し各種事業を推進していきます。特に、①ICTの効果的な活用による、学校教育の質の向上、②働き方改革の一層の推進、③地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進等を重点とし、学校・家庭・地域をサポートしたいと考えています。皆さんの、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

各学校における教育目標の具現化に向け、西部教育事務所では下記の事業及び支援を行っています。

・「学力向上推進事業」・「ICT活用促進プロジェクト指定校事業」

※ 管内7校(高崎市立中央小学校、藤岡市立美土里小学校、藤岡市立平井小学校、藤岡市立日野小学校、藤岡市立西中学校、富岡市立東中学校、安中市立秋間小学校)の指定校に、組織的な学力向上対策を進めていただいております。また、1人1台端末を活用した学びについて組織的に実践研究を進めていただいております。

・「生徒指導充実支援事業」

※ スクールカウンセラースーパーバイザー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーの派遣ができます。いじめ、不登校、学力不振、非行等の問題に対して、関係機関等とのネットワークを活用したり、ケース会議をしたりしながら困難な事案の解決に向けた支援を行います。

・「専門相談員の派遣」

※ 各学校・園等に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導等について、先生方の相談に応じています。通常の学級・特別支援学級・通級指導教室を問いません。

上記事業・支援については、西部教育事務所(027-322-5915)へお問い合わせください。



ICTをさらに効果的に活用しましょう ～家庭学習を含めた授業デザイン～

昨年度は、1人1台端末が導入され、西部管内の各学校においても、積極的にICTの活用を進めていただきました。さらに、ICTの有効活用に向けて、研修等で理解を深めていただいている学校も増えてきています。

ICTの活用では、学習のねらいを達成するための手段として、「いつ、どこで、どのように活用するのか」を明確にし、単元を構想することが重要です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させた「主体的・対話的で深い学び」を実現していくために、家庭学習も含めて単元をデザインし、ICTの特性・強みを生かして、さらに効果的な活用となるよう工夫していきましょう。

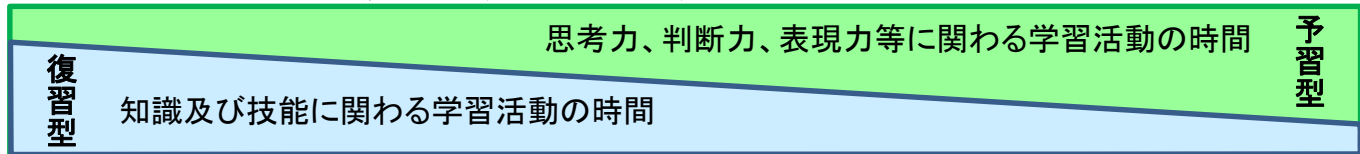


ICTを家庭学習で活用する場合、どのようにすると効果的になるのかな？

単元構想において、各単位時間で身に付けさせたい資質・能力を強化していくイメージをもつのはどうでしょうか。



<授業と家庭の学びの連携を深めるイメージ図>



群馬県が資料提供している「授業と家庭の学びの連携を深めるイメージ」です。これを基に考えると、例えば、知識及び技能をしっかりと定着させたい場合には復習型、思考力・判断力・表現力等を伸ばしていきたい場合には、予習型の家庭学習を取り入れると、授業中に思考したり表現したりする時間がより確保でき、効果が期待できます。

【復習型のイメージ】

学びの定着、理解を深め、広げる

- ・AIドリルで個に応じた練習問題
- ・デジタル教材を見ながらの復習
- ・授業で学んだ内容の情報を調べる

家庭学習を含めて

3つの資質・能力のバランスのよい育成

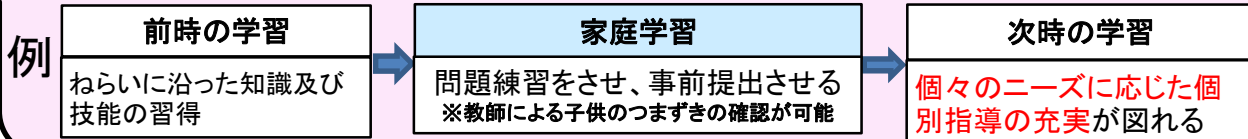
【予習型のイメージ】

次の授業の充実に向けて準備

- ・授業で必要となる情報を調べる
- ・授業で使う動画や写真を撮影
- ・次時に追究する問題を解いて、ノート of 画像を提出する 等

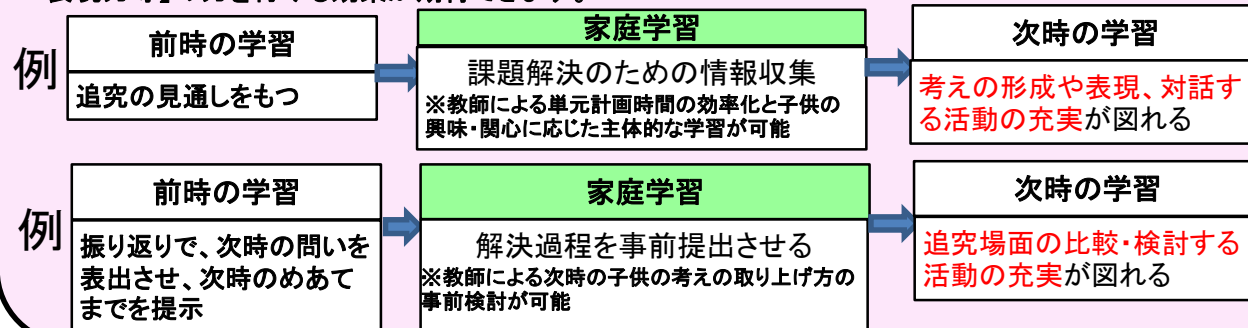
復習型

復習型は、問題練習や反復練習をさせることで、【知識及び技能】の定着に効果が期待できます。練習問題を解いた結果を事前に提出させることで、子供のつまずきを事前に把握することができるので、次時の授業展開における個別指導の充実を図ることができます。



予習型

予習型は、次時の課題について情報収集をさせ、解決の見通しをもたせることで、学習に向かう主体性を育む効果や、授業における協働的な学びの場での思考や表現する時間を確保し、【思考力、判断力、表現力等】の力を付ける効果が期待できます。



各単位時間で身に付けさせたい資質・能力を効率よく、効果的に育むために、家庭学習においてもICTを活用することはとても有効です。前時と次時のつながりに加え、家庭学習とのつながりも含めた単元をデザインし、学びをつなげていきましょう。



「ICTを活用した家庭学習のススメ」

ぜひ、ご活用ください！！



「はばブラII ICTver」

群馬県教育委員会では、ICTを活用した授業実践事例や今後のICT活用として期待されることの資料提供をしております。未来を生きる子供達の資質・能力の育成のために、ぜひ、参考にしてください。